

第1章

序論

A. 問題の背景

言語は記号と音声のシステムと言われている。記号として、概念、考え、アイデア、または心の形を表す音の形で伝達される。記号は、概念、アイデアを参照すると思ったので、言語が意味を持っていると主張することができる(Chaer, Abdul 1994:57)。

外国語でのコミュニケーションをサポートするために、学習者は本質的に言語の文法、音素、形態素、構文など理解するだけでなく、文化や習慣など外因性の要素を理解することが必要である。コミュニケーションでの文化や習慣を知ることで、学習者は外国語の使用及び通信するのに役に立つ。言い換えれば、言語は全体的に実際の状況でも理解する必要がある。意味論とは言語や句、または文の意味を研究する言語学の一分野である。意味論の対象は「語の意味」、「語の意味の関連付け」、また「文の意味」である Sutedi(2003:103)。といっても、現在までの言語研究は殆ど文法的な研究しかされていないことが分かる。言語にはただ文法的ではなく、全体的な状態のような要素も必要となる Sutedi (2003:159)。

慣用句は社会の中に出現・進化し、頻繁に特定の目的を表現する。慣用句

は日本語やインドネシア語でも間接的にポイント代替手段として使用されている。スルヤディムリア(2010)このケースでは、相手の不快な気分を避けるために、特定の目的（慣用句）を表現する。コミュニケーションのために、慣用句の意味が認識して使用されている。確立されている言葉と意味の慣用的な意味を示す。

『現代国語辞典』(1971)に石川では「慣用句」と言うのは、二つ以上の単語が結びついて、意味は単語の一部から解釈できない特有の意味を持っている」と述べている。

慣用句の意味はインドネシア語で同等のものとして解釈することはできないので、意味を暗記するより他に方法はない。したがって、日本語学習者として、外国語学習者が非常に重要な制約となっている。慣用句の意味を理解していなければ、誤解や不適切につながる。例えば、「怒り」を表現するためには、「腹が立つ」を使用することができる。又、「傲慢」を表現する場合は、「鼻が高い」という慣用句を使用する。語彙的で「腹が立つ」は「perut berdiri」という意味であり、「鼻が高い」は「hidungnya tinggi」という意味である。初期の日本語学習者にとって、ネイティブスピーカーが何を意味するのか理解するのは困難である。

他の連語では、「家をたてる」や「青い筋をたてる」が別の意味を持っている。文法からであれば、「たてる」の動詞・「家」と「青い筋」の名詞に形成

されている。しかし、文章から見たら、「たてる」の意味は「**mendirikan**」や「**menegakkan**」であって、「家」は「**rumah**」という意味である。したがって、「家をたてる」は「**mendirikan rumah**」と翻訳することができる。松浦 (1994:1051) ただし、この「たてる」の意味は、「青い筋」と組み合わせる「たてる」とは意味が違う。

「青い筋をたてる」は慣用的な意味を持っている。その意味を組み合わせた単語の字義通りの意味とは異なる慣用句である。「青い筋をたてて、怒る」という連語が要素に基づいて翻訳されていても、この文の意味が全く理解できない。つまり、「青い筋をたてる」の意味は「**mendirikan urat biru**」ではなく、「**menegangkan urat muka**」である。誰かが怒っている時、顔が緊張し、青筋も見られる。普通は青筋が表示されておらず、怒っているように見えるので、「**menegangkan urat muka**」を意味する。

慣用句の言語学習についてはスルヤデイムルヤ (2010) が研究して出した結論の内容にも見られると思われる。その研究は日本人の小学校の六年生とインドネシア人からの大学生の日本語学習者を対象として、慣用句「特に、身体語彙慣用句」の理解力を調査していた。スルヤデイムルヤ(2010) が以下のような結論を出した。

1. インドネシア人日本語学習者（留学経験なし）の方は慣用句の理解度が低い。

2. 慣用句の理解には背景が必要である。

話し手の話や意味などが理解できれば、コミュニケーションがスムーズになる。慣用句の知識が未熟な日本語学習者はコミュニケーションのコースを妨^{さまた}げることに繋がる。雅恵とまがら(2002)によると、慣用句を使用すると、日常会話や文書で、人の表現を展開し、豊かになる。日本人の考え方が違うので、確かに言語を表現する方法に影響を与える。チョムスキーは、言語がミンダの反映した物であると提案した。アルワシラ(2008)は言葉というものをを用いて、言葉そのものが文法という制度に結びつけることによって、言語の意味を作ったのである。その意味が認知的プロセスからあって、別々言語によって、内部の講造的な言語が違って、特別な表現になる。その相違点の理由には必ず動機づけがある。それは習慣、考え方、社会系、文化などが大きく関わっていることである。慣用句の意味を分析するときも、字義通り意味、慣用句的な意味及びどんな意味関係をするかを分析する。その意味関係は Sutedi(2009) 及びマリアム(2008)のように、比喩的のメタファーやメトニミーなど認知言語学の手法を用いて分析を行うこととする。先行研究として、マリアム(2008)の分析した結果によると、日本語の慣用句を理解するために、字義通りの意味「構成表素」及び慣用句全体の意味成立を説明することが一つの方法と述べた。比喩的のメタファーやメトニミーなど認知言語学に基づく説明をした。四年生の大学生に対して、その4つの慣用句のサ

ンプルとしては、結果が明らかになった。分析した結果によると、92.2%の学習者にとって、日本語の慣用句を理解が出来たとされている。同じような事もまだ広く行うことが必要であり、少しずつ学習者にある問題が解決することが分かった。

上記で述べたように、筆者は「目」、「鼻」、「口」、「耳」及び「舌」がある人体の要素など、特に五感が含まれている日本語の慣用句の意味を検討したい。

B. 問題の設定及び範囲

本研究の問題を以下のように述べている。

1. 「鼻」、「口」、「耳」、「目」、「舌」とい身体部分の構成表素を用いた慣用句はどんな意味関連付けであるか。

慣用句においては、身体部分慣用句というものが多くある。筆者は本研究の範囲は以下になる。

その5つ「鼻、口、耳、目、舌」の身体部分慣用に限って、研究の対象にした。

C. 研究の目標

本研究の一般的な目的は「目、鼻、口、耳、舌」と言う言葉を使用した慣用句は字義通りの意味と慣用と意味は関係があるかないか調べること。その目的を達成するために具体的に、以下のような特別な目的を説明する。

1. 「鼻」、「口」、「耳」、「目」、「舌」という身体部分の構成表素を用いた慣用

句の意味の関連付けを述べる。

D. 研究の意義

1. 本研究では慣用句は字義通りの意味及び、慣用の意味、それに意味関係を記述したので、教師及び学習者のために慣用句のことをもっと理解できるようになる。
2. テキストから回収された身体部分慣用句が必要された身体部分慣用句は参考にできる。
3. この研究で読者及び日本語教育機関は慣用句を用いた日本語でのコミュニケーションできる。

E. 基礎的な理論

説明した通り、「慣用句」と言うのは、二つ以上の単語が結びついて、意味は単語の一部から解釈できない特有の意味を持っている」と述べている。慣用句は全体の意味は、個々の構成語がその連結の一部ではない時に持つ意味を総和からは導き出せないものということであるが、まだ言語にある意味拡張は背景や動機付けがあるので、まだ説明できる。この方法は認知言語学に基づく比喩的にメタファーやメトニミー等を用いて慣用句的な意味を記述する。意味を記述するために、本研究では靱山(2002)によって、字義通りの意味及び慣用の意味拡張の関係を分析する際に用いる比喩的のメタファーや

メトニミーなどのパターンを行った。

F. 研究の方法

本研究とは、問題を理解するし、評価できるし、または答えを見つけるために体系的、論理的に科学的な措置に基づいているプロセスである (Sutedi, 2009: 16)。本研究の目的が良く達成するために、効果的もしくは効率的な手順が必要である。実装される手順は、メソッドと呼ばれる。つまり、研究方法とは研究を達成するための手順である。

本研究で用いた方法に記述方法である。記述方法とは実際の問題に対処するために科学的な手順を使用して、現象を記述し、記述するための研究である (Sutedi, 2009:58)。本研究には日本語の慣用句に対する学生の理解問題を明らかに説明する上で、目<mata>, 鼻<hidung>, 口<mulut>, 耳<telinga>及び舌<lidah>に含まれる日本語身体部分慣用句の意味を記述する。

本研究でのアプローチは、定性的なアプローチである。定性的なアプローチを使用して検討されているすべての慣用句を記述することを意味する。本研究では意味の関連付けを記述するには、このステップで靱山(2002)で説明した対策を使用している。それはメタファーやメトニミーなどを使用する。言語は 3 つの比喩から不可分であるが、各動詞の字義通りの意味を決定する際に、以前の研究の結果を使用されることである。

以上の 3 つの比喩の範囲は以下のように靱山(2002)に基づいている。

- a) 隠喩とは、共通点と類似点があることで、ある物（A）を別の物（B）にたとえるということである。例：君は僕の太陽だ。
- b) 換喩とは、時間と空間の関係や密接な関係などで、ある物（A）を別の物（B）にたとえるということである。例：なべが煮える。
- c) 提喩とは、全体の名称で指示してその一部を表し、また一つの名称を指示して全体を表すということである。例：「花」といって「桜」を表す。

データ収集の手順

質的なデータは以下に述べた方法で分析する。

1. 研究される慣用句の字義通りの意味を探す
2. 分析される各慣用句からの慣用の意味を探す
3. 隠喩、換喩、及び提喩の比喩を使用することによって字義通りの意味及び慣用句の意味の関連付けを記述する。

実例と作例以外に使ったデータの元である。実例は日本語大辞典とことわざ慣用句辞典などから回収した。研究者は「口、目、鼻、耳、舌」と言う言葉を持つ慣用句の意味を概説する。それに従って研究はその言葉のケーススタディである。この研究に行った言語構造の調査検討は現在使われている日本語の同期検討である。実例と作例によって一般化の帰納をする。詳しい研究方法は第三章で述べる。